

テージョ・ワイン街道

について



写真: Gonçalo Villaverde | Vinhos do Tejo

テージョ・ワイン街道

「テージョ・ワイン」が生産される地域は、その名の由来となったテージョ川が横切る広大な地域です。さまざまな色合いの緑が風景を彩り、それが周期的に堤防を崩す大きな水面に映り、周囲の畑をより肥沃にしています。

テージョ川はマデイラの領土を流れるため、気候や農地に影響を与え、3つの異なるテロワールでブドウ畑が育つ条件を作り出しています。北西部、テージョ渓谷とカンデイロスとモンテジュントの丘陵地帯の間にある「近隣地域」は、赤ブドウ品種の栽培に理想的な地域です。定期的に洪水に見舞われる川沿いの広大な平野部では、「田園地帯」が白ワインの生産に適した地域となっています。さらに南の左岸にある「ヒース」は砂質土壌で、赤ワインと白ワインの両方が生産されています。この地域の多様なネクターに加え、フェルナン・ピレス、アリント、シャルドネ、ソーヴィニヨンなどのブドウ品種から作られたロゼ、スパークリングワイン、セミスパークリングワイン、リキュールワインも楽しめます。



Convento de Cristo © Shutterstockfamily

リバテージョ地方でのワイン生産の歴史は、はるか昔、おそらく紀元前2000年まで遡ると考えられています。しかし確かなことは、1170年（1143年のポルトガル建国から数十年後）に初代ポルトガル国王アフォンソ・エンリケスがサンタレンに与えた勅許状において、この地域がすでにワイン生産地として言及されていたことです。この地域の最も重要な建造物のいくつかは12世紀に遡り、その中にはクリスト・デ・トマルの城と修道院、サンタレン、アブランテス、トーレス・ノヴァスの城などがあり、ポルトガルとポルトガル国民の形成に大きな役割を果たしました。数世紀にわたるさまざまな様式の歴史的遺産が豊富にあり、サンタレンのゴシック様式は特に注目に値します。

ワインの生産は常に一定していたわけではなく、20世紀の最後の数十年間は、「DOC」（原産地統制呼称）や「IGP」（地理的表示保護呼称）の呼称をボトルに付けることができるようになった公的な認証のおかげで、かなりの盛り上がりを見せました。



Lezíria do Tejo © ATRIStockPhotoArt

この地域とワインの本質を知るには、テージョ・ワイン街道118として指定されている国道118号線沿いのツアーをお勧めします。テージョ川の左岸に沿って約150kmにわたって伸びており、アブランテス、コンスタンシア、チャムスカ、アルピアルサ、アルメイリム、サルパテッラ・デ・マゴス、ベナビンテの7つの自治体を横断しています。いくつかの生産者を訪ねてワインを試飲したり、ワインを購入したり、ブドウ畑やワイナリーを訪問することもできます。食事や宿泊を提供している場合もあるので、最良の価格で確実に利用するために事前に予約する必要があります。

農業と畜産の伝統が色濃く残るこの地域では、馬と雄牛の飼育が最も盛んな産業の1つで、ゴレガンのフェイラ・ド・カヴァロ（馬市）やサントレンのフェイラ・ダ・アグリкулトゥーラ（農業市）などのイベントで祝われます。馬術は根強い伝統があり、乗馬や遠出は試してみる価値のあるアクティビティです。ボートツアーもお勧めです。バードウォッチングをしたり、川の息を呑むような景色を楽しんだり、エスカロウピンやパルホタなどの「アヴィエイラス」の漁村を発見したりすることができます。

傑出した肉料理や淡水魚料理を含む美味しい料理を試さずに訪問を終えることはできません。これらはテージョ・ワインと非常によく合い、ファティマス・デ・トマルやティゲラダス・デ・アブランテスなどの美味しい卵ベースのスイーツともよく合います。